

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ R6学 校 力 向 上 プ ラ ン 【学 校 評 価 計 画 書】

堺市立金岡南小学校
校長 佐藤 真理子

中学校区におけるめざす子ども像												
自分のよさを知り、失敗を恐れなくて挑戦する子												
令和6年度 重点目標												
・総合的な学力向上の育成 ～ ①「学びに向かう力」を引き出す ②ICTを活用し情報活用能力を伸ばす ③言語活動の活性化を図り「思考力・判断力・表現力」を伸ばす ④学力に課題のある子どもの「知識・技能」の基礎基本の定着を図る ⑤家庭学習習慣の充実を図る ⑥読書週間の定着を図る ⑦探究的な学びを推進する ・豊かな心と健やかな体を育成するための指導の充実 ～ ①すべての子どもに「居場所」と「出番」のある教育活動を通して自尊感情を醸成する ②豊かな人権感覚をもった指導 ③どの子ども安心して学べる学習集団を育てる ④障害理解教育等を通して違いを認め合える集団づくり ⑤体験活動を大切にし、感動体験を積み重ねる ⑥体力向上と運動習慣の確立 ⑦7つの約束の定着を図る ⑧給食指導の徹底を図り「食育」を推進する ・地域協働型教育の推進 ～ ①学校ホームページや学校通信を活用し、学校教育活動の情報公開と発信に努める。②地域行事への参加や、地域人材を活用することで、地域と学校とのつながりを自覚し、地域の人への感謝の気持ちを育てる。												
「確かな学び」の現状						「豊かな心・健やかな体」の現状						
・研修テーマを「ともに学ぶ子どもの育成」、めざす子ども像を「自分の考えを、進んで表現する子」とし、研修を進めてきた。その成果は学年でばらつきがあるが、全体としてまだ、未達であるとする。児童アンケート調査では、「挙手して発表している」の肯定的回答が65%、「自主学習に意欲的に取り組んでいる」の肯定的回答が49%である。つまり、自主的ではなくやらされている学習となっているのではないかと考える。そこで、「自分の考えを、進んで表現する子」をめざし、学習展開や指導の在り方について研修を進める。研究授業においては、今年度も「国語（領域「読むこと」）思考・判断・表現について研究を深める。						・「一人ひとりに居場所と出番を保障する人権教育をめざす」、また、「自分を大切にする子、人を大切にする子、ものを大切にする子」の育成をめざし教育活動を進めてきたが、学年が上がるにつれ自己肯定感や自己有用感が低くなる傾向がある。また、依然として不登校児童や、学校に行きづらく、保健室等別室で過ごす児童もいる。教職員の現状としては、1校目の経験の少ない者が多く、教職員全体の人権感覚力や生徒指導力の低下が懸念される。体育の授業時間内において、運動の目的と内容を明確にし、運動量を確保することに取り組んでいる。運動が好きな児童、主体的に取り組む児童が多いが、運動能力・技能や新体力テストの結果では、全種目に課題がある。また、児童数が多いことも要因の一つではあるが、ケガ等での保健室来室者が非常に多い。安全管理や安全指導をよりいっそう徹底する必要がある。						
大項目	具体目標	具体的な取組		判断基準	評価方法	評価時期	進捗確認 (～12月)		達成状況（年度末）			
		（●重点とする取組、★中学校区での取組）							自己評価		学校関係者評価	
		児童が主体的に学習に取り組む、「ともに学ぶ子ども」を育成する。	●自分の考えをもとに、グループで学習したり、全体で共有したりする授業や教材の研究をすすめる。	ノートに自分の考えを書き、児童どうしがその考えを共有したり話し合ったりしている。	学校教育アンケート	2学期末 3学期	○	ノートに考えを書くことだけではなく、ICTを活用して考えを表現することにも取り組んでいる。	○	学校教育アンケートの結果から、「自分の考えをノートに書いている。」は8割の児童が肯定的回答をしている。また、「1時間の学びはわかるようにノートを書いている」も同じく8割の児童が肯定的であることから、自分の考えを表現しようとする児童の姿勢が見えた。	○	・ノートやタブレットに自分の考えを書くことができている。 ・自主学習に取り組むことができている。
			●家庭での自立した学習を支援するための、「自主学習ノート」「MY手帳」の指導を徹底する。	全学年で自主学習ノートに取り組み、コメント等で評価している。	児童のノート ノートグランプリ	2学期末 3学期	○	家庭学習通信の発行や、ノートグランプリに取り組み、お手本となるノートの紹介をしている。	△	「学習する内容を自分で決めて、自主学習をしている」では8割の児童が肯定的回答に対し、保護者アンケートでは否定的回答のが多くなり、児童と保護者で認識の差がある。次年度以降、差がないよう改善していきようしたい。	○	
「全員参加」「全員理解」の魅力ある授業によって、思考力・表現力・表現力を高める。	●「考える力」「表現する力」を伸ばす、魅力ある授業の研究を進める。		児童のノートやタブレット端末に、思考の深まりや変容が表れている。	授業実践 児童のノート アンケート	2学期末 3学期	○	研究授業では、各学年の取り組みから出た成果や改善点を積み重ねて、国語の「読解」領域の系統性を意識し、各学年で付けたい力を意識して授業づくりに取り組んだ。	○	学校教育アンケートの結果から「授業がわかりやすい」の項目について、肯定的回答が9割と増加している。また、「自分の考えを友達に話したり、考えを聞いたりすることは楽しい」との項目も8割の児童が肯定的である。しかし、「授業中進んで発言や反応する」という項目は8割を下回っており、進んで発言できるような取り組みを行ってきたい。	○	・タブレットを日常的に効果的に活用できている。 ・これから子ども同士とのつながりや関わりを大切にしてさらに授業改善に取り組んでほしい。	
	●全教職員が、公開授業を行うとともに、積極的に参加することで、授業力を向上させる。	グループや全体での交流の中で、思考の深まりや変容が表れている。	授業実践 児童のノート アンケート	2学期末 3学期	○			○				
		全教職員が、公開授業を行うとともに、積極的に参加することで、授業力を向上させる。	全教職員が公開授業を行う。アンケートの各項目の評価が上がっている。	公開授業 アンケート	毎学期末	○	公開授業を参観することで、授業のスキルアップに取り組んでいる。	○	○			
豊かな心・健やかな体	一人ひとりに「居場所」と「出番」を保障する人権教育を充実させ、豊かな人間性を育成する。	●どの授業においても、全ての児童が安心して心を開いて学べる学級集団をめざして、「明確なねらいと役割のある話し合い活動」を充実させる。	「授業中、友達とペアやグループで学習することは楽しい」の肯定率	学校教育アンケート 学習の振り返りシート	2学期末	○	どの学級もペアやグループでの活動を積極的に取り入れている。研究授業でも、ペアやグループ活動の効果について話し合っている。	○	「いじめは絶対いけないこと」「いじめをしていない」は90%以上の肯定率で、いじめを許さない学級づくりは概ね取り組んでいる。しかし、これらの項目は100%であるべきと考えるため、引き続き児童に「絶対いけないこと」ということを伝えていきたい。	○	・きまりを守ることができる児童が多い。 ・進んであいさつができる児童を育ててほしい。 ・良い行いを褒め、子どもたちの自己有用感を高め、「幸せ」を実感できるようにしていただきたい。	
		●いじめを見逃さない学級づくりのために、学校生活アンケートで児童の生徒指導上の困りごとを表出させ、担任を中心に早期対応にあたる。	「学校は、きまりを守る態度の育成や、いじめを見逃さない学級づくりに取り組んでいる」の肯定率	学校教育アンケート 学校生活アンケート	2学期末 毎学期	○	毎学期児童アンケートを実施し、否定的回答のある児童については担任が開き取りを行い、解決に向け取り組んでいる。	○		○		
		・道徳の時間を核として、教科学習との関連を図りながら、計画的・継続的に道徳教育を充実させる。年1回、学習参観での道徳授業を行う。	「道徳（光村図書）「みらいをひらく」を効果的・計画的に活用する。	授業実践	2学期末	○	全学年、計画的に学習参観での道徳授業に取り組んでいる。	○		○		
	運動に親しむ機会や学習を通して、体力を向上させる。	・体育の授業以外にも、委員会活動や児童朝礼などでの啓発活動を通し、児童に日常的に体力向上を意識づける。	「運動することは好きだ」の肯定率	「運動することは好きだ」の肯定率	学習の振り返りシート	2学期末	○	・休み時間などのみんな遊び時間を活用し、児童の運動時間の確保を行っている。 ・体育委員会が中心となり、ドッジボール大会や大縄大会を企画・実施し、運動の機会をつくっている。また、朝礼やポスターなどで啓発活動をしている。	○	「運動が好きだ」の肯定率は86%で、昨年度と同等の高い水準を保っている。体育の時間において、折り返し運動を行うことにより、怪我なく楽しく体育に取り組めるようになったことや、継続して行っている体育委員会での啓発活動で、運動することの楽しさが伝わり、結果につながっているといえる。	○	・体育参観や委員会の取組が素晴らしかった。 ・体力には課題が見られる。運動に親しむ機会や学習を通して、体力向上に努めてほしい。 ・食育の授業などを通して、引き続き、食育の取組の充実を図ってほしい。
		・体力の向上を意識した準備運動や基礎感覚づくりの運動を系統立てて取り入れ、身体の使い方を体で感じられるような学習機会の工夫をする。		折り返し運動を主にした体力向上や、基礎感覚づくりをねらった準備運動に取り組む。	授業実践	2学期末						
	食育を推進し、健康の維持増進を図る。	栄養教諭と担任等が連携し、各教科における食育や給食時間における食育の取り組み、および給食委員会の啓発活動を通し、食の大切さを考え、好き嫌いをなく食べようとする意識を高める。	1学期より残食量を減らす。	残食調査 6月、11月	残食調査	2学期末	○	・栄養教諭が中心となり、各教科と連携した食育授業を行っている。また、給食委員会において委員会活動の中で感じた給食での課題について朝礼で啓発したり、ポスターを製作したりしている。	○	学校アンケートの結果、「給食を残さないように心がけている」という質問に対し、86%の児童が肯定的に回答している。また、保護者の質問項目である「学校は、給食や食育を通して健康の維持増進に取り組んでいる。」に対しては、87%と昨年度とほぼ同様の結果となった。引き続き、給食委員会の取組みや食育の授業を行うとともに、家庭へも発信をしていく必要がある。	○	
(地域協働)	学校情報の積極的な発信を行うとともに、地域とともに歩むチーム学校づくりを進める。	●学校ホームページ、校報等を活用し、教育活動の現状や成果等の発信に努める。	課業日は、学校ホームページの更新に努め、アクセス数を増やす。	HPアクセス数	2学期末	○	校報を毎月発行し、教育活動を発信している。毎日、ホームページを更新し、教育活動や子どもたちの様子を発信している。	○	今年度のホームページアクセス件数は、1,400,149件(令和7年2月19日現在)であった。学校アンケートでは「学校は積極的に情報を発信している。」という設問に対し、肯定的回答が84%であった。積極的な情報発信については、一定の成果があったと考える。また、今年度より総合的な学習の時間での地域の企業や保育園、老人ホームとの交流が始まった。次年度も取り組みを継続し、交流の輪を広げていく。	○	・ホームページで学校の様子がよくわかる。 ・今後も地域と連携しながら子どもたちを育ててほしい。	
		★中学校区3校が連携し、目標・目的を共有する。 ●生活科・総合的な学習の時間等で地域と連携する。	3校合同研修等で連携を行う。 2・3年「校区探検」や4年「防災教育」等で連携に取り組む。	実践	3学期	○	金岡南中学校区で合同研修を行ったり、生活科や総合的な学習の時間に、地域の方々と交流したりしながら、連携を図っている。	○				
校長より（年度末）								学校関係者評価者から（年度末）				
プレゼンテーションや意見の共有のほか、文章を書くことなど、ICTを活用する機会が増え、子どもたちはICT活用力を伸ばすことができた。また、授業での話し合い活動を日常的に行うことで、子どもたちが主体的に学習に取り組み、一生懸命に頑張る姿を見せてくれた。次年度は、子どもたちの可能性をさらに引き出し人間性を育成するため、道徳教育の充実、指導力向上、児童の体力向上などに努め、保護者や地域から信頼される学校づくりをめざしていきたい。								金岡南小学校の子どもたちはとてもよくがんばっている。体力が向上するよう、がんばってほしい。友達とのつながりを大事にして、子どもたちが「幸せ」を実感して生きていけるような教育を、進めてほしい。				